

資料編 近現代6

— 高度経済成長期の青森県 —

— CD-ROM 青森県史統計 —

本巻は一九五〇年代から七〇年代に、日本が高度経済成長を突き進む中で、青森県がどのような時代にあつたのかを描いた資料集です。この時代は多くの県民にとつて、自ら体験し、経験してきた時代です。県民の関心も多岐にわたると思います。

本巻では、まず高度経済成長期の県政を牽引した山崎・竹内県政を取り上げ、米軍基地と並び、青森県に大きな影響を持つ自衛隊に言及しました(第一・二章)。次に、むつ小川原開発を筆頭に、開発に関する資料を第三章と第四章で特集しました。経済成長を支えた交通体系の資料も充実させました(第六章)。

青森県は第一次産業が重要な位置を占めています。本巻では、高度経済成長に伴う振興と変容に焦点を当てました(第五章)。また、経済成長が社会情勢や労働環境に与えた影響にも言及しました。有名な集団就職も、ここで取り上げていきます(第七章)。

経済成長は教育や文化の面を中心に、県民の生活面にも大きく現れました。このため三章にわたつて、県民の生活に関する資料を掲載しました。寒冷な北国に位置する青森県の雪についても取り上げました(第八・十章)。

多種多様な資料に加え、口絵の写真も満載しました。本巻を通じ、同時代史ならではの醍醐味を味わって欲しいと思います。

なお、本巻には戦前に県が刊行していた「青森県統計書」より、重要なデータを取り、重要データを採録して電子化したCD-ROMを添付しています。



あすなる国体秋季大会の開会式
昭和52年(1977)10月2日・青森県史編さん資料

本巻の構成

- 第一章 高度経済成長と保守県政
- 第二章 日米安保体制下の青森県
- 第三章 地域開発の展開
- 第四章 巨大開発と原子力の時代
- 第五章 農林漁業の振興と変容
- 第六章 交通体系の整備と観光開発
- 第七章 変貌する社会と労働・福祉
- 第八章 北国の暮らし
- 第九章 転換期の教育
- 第十章 多様化する民衆生活と文化



大湊港に入港する原子力船「むつ」
昭和45年(1970)7月19日・青森県史編さん資料

民俗編 資料津軽

「資料 南部」「資料 下北」に続く民俗編の三冊目、そして青森県史民俗部会の刊行する資料本編の最終冊となる「資料 津軽」をこのたび刊行いたします。本書では既刊に引き続き三部構成によつて、さまざまな角度から津軽の民俗に光をあてました。

第I部 民俗の諸相

社会構成 生業 衣食住
人生儀礼 年中行事 信仰
民俗芸能 口承文芸 声と音



鹿島祭(深浦町大間越)・青森県史編さん資料

津軽地方の沿岸漁村、内陸の農山村に暮らしたひとびとの営みを記録しました。県や各自自治体による民俗調査をはじめとする先行の調査研究を礎に、県史調査の成果をくわえ、平成の現在における「津軽の民俗」資料集を目標しました。オールカラーで写真や図版、表、楽譜をふんだんに掲載しております。

第II部 民俗研究のあゆみ

明治期以降の郷土研究の萌芽や民俗研究の進展を、齋藤吉彦、竹内長雄、森山泰太郎など研究者や研究団体、その研究成果に注目してひもときました。また、これまで活字化されていない資料も収録しました。特に森山泰太郎の未公開自筆資料「津軽の海村」は、青森県の民俗研究を牽引した筆者が「戦後の民俗学の出発に際して情熱を傾けて調査したその記録(本書まえがきより)」です。ノート三冊をすべて収録しました。

第III部 民俗関連の記録資料

ひとびとの暮らしのなかで息づき、伝えられてきた記録資料に注目しました。講の様子が書き留められた帳面や、船霊祭祀の巻物、マタギの家に伝来する巻物、獅子踊・獅子舞の絵巻物など、翻刻だけではなく写真も交えて紹介します。

また、本書では附録CDを添付。第II部からは「津軽民俗」一〜四号などの貴重な津軽民俗の会関連資料、第III部からは江戸時代後期に津軽を旅した菅江真澄の日記・紀行といった豊富な資料をデジタル化して収録しました。



お山参詣(弘前市百沢 岩木山神社)・青森県史編さん資料